



令和 8 年度 図画工作科実践・研究計画

部 員 ○三浦茉莉子、大森果歩

I 図画工作科における 自律した学習者の姿

- 1 形や色などに関する造形的な
気付きを得て、自信をもって表現
につなげていく姿
- 2 表したいことに対して、自分の
世界観をもち、想像を広げていく
姿
- 3 造形的な視点に基づき、意図を
もって表現を発展させていく姿

II 図画工作科における 授業デザインの取組

- A 造形的な気付きを自分の表現に生
かそうと思える、表現や鑑賞の設定
- B 表現することに自信をもてたり、
想像が促されたりする言葉掛け
- C 子どもの表現や鑑賞に対する、造
形的な価値付け

III 1・2 年次研究で生成した仮説

	問題解決に没頭する子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	要因・手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	表現方法を試す過程で造形的な気 付きを得て、その後の表現を発展さ せた姿 (1、3)	多様な表現方法を試すことに没頭で きる場をつくり、その方法が生み出す形や 色の効果を実感できるようにしたこと (A)
	自分が想像したことや表現の仕方 に自信をもつことができた姿 (1、2)	子どもが表そうとしていることに対 する共感的な言葉掛けや対話、造形的な価 値付けを継続して行ったこと (B、C)
二 年 次		

IV 1 年次研究の課題と、改善するための手立て

	課題となった子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	改善するための手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	造形的な気付きを得ながら身に付 けた表現方法を活用したり、さらに表 現を発展させたりするには至らない 姿 (1、3)	出合った表現方法をまた活用したいと 思えるように、新たな表現方法との出合 いの場、その効果に手応えを感じられる まで試行錯誤する場、題材をまたいで繰 り返し活用する場を設定するなど、連続 性のある表現体験となるようにする。 (A、B、C)